

教科名

社会

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 初めての定期考査なので、そっくりテストを行うなどの対策をしたが、一部の生徒はあまり意識が高くなかったため平均点は高くなかった。 論述問題が苦手な「～について説明しなさい」という問題は敬遠したり、文章が足りない生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理では、グラフや地図を見て、どう変化したか読み取って文章化する課題を多く行った。また、教科書の読み取りを徹底させた。 オクリンクで調べたことを送らせたが、なかなか共有する時間がない。ミニ発表会を行って、他の生徒が調べたことを知るようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が興味をもって取り組める課題、考えさせるような課題をプリントの中に取り入れる。 授業の中で、教員が話す時間、生徒が調べる時間、話し合う時間を割り当てるようにする。 小テストを工夫して、定期考査に生かせる内容にする。
8 学 年	<p>【地理】定期考査そっくりテストをあらかじめ行って対策したため、その部分はよくできていた。応用にも強くなるようにさせる。</p> <p>【歴史】定期考査は、思考・判断・表現の問題ができていない生徒が多い。授業の中で考えさせる課題に取り組ませる。</p>	<p>【地理】プリントの穴埋めや解説だけでなくオクリンクで調べさせたり、発表させたりする時間を多くとる。ただし、進度が遅くなるのが課題である。</p> <p>【歴史】自分で教科書を読んで答える課題には、しっかり取り組んでいる。考えさせる課題にも取り組む必要がある。</p>	<p>【地理】生徒が主体的に学べるような課題を考案し、受動的になりすぎないようにする。その一方で、進度が遅れないような効率的なプリントを作成する。</p> <p>【歴史】教科書を読んで取り組む課題、自分で考えて答える課題など、課題プリントの内容を工夫する。</p>
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、しっかりと学習に取り組んだ生徒と取り組めなかった生徒の間に大きな差がある。 校内学力テストは、都立高校と同じような出題内容で範囲も広い。そのため、定期考査で高得点だったにもかかわらず点数が下がっている生徒がいた。試験範囲が広がると苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史が終わって公民に入ると興味深く聞いている生徒がいる一方で、関心のない生徒もいる。新聞などを利用して、社会的事項に興味をもたせたい。 話し合いの機会が十分にもてない。公民には色々なディベートのテーマがあるので、テーマを決めてやらせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を見てできる課題や自分で調べる課題など、課題の内容を工夫して、プリントを作成する。 課題プリントの最後に「学習のまとめ」の欄を設け、毎時間自分で学習の振り返りをさせる。 教科書の資料やグラフを読み取らせる活動を行い、自分で考えることを指導の中心にする。